

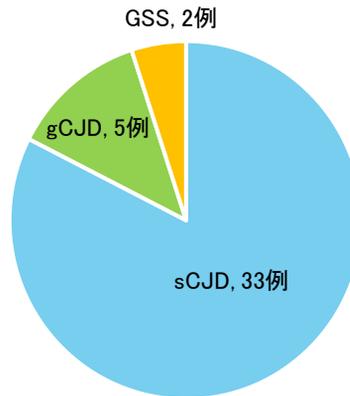
九州・山口・沖縄地区におけるプリオン病の疫学調査報告

研究分担者： 九州大学大学院医学研究院神経内科学 磯部紀子

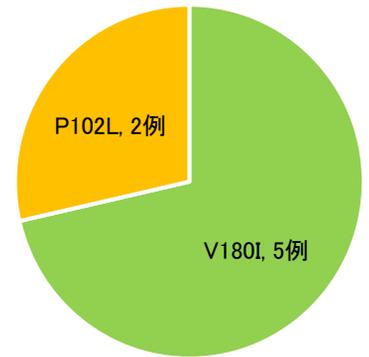
2023年度のサーベイランス状況(74例)

	sCJD	gCJD	GSS	否定・その他
山口	0	0	0	2
福岡	6	0	1	3
佐賀	2	0	0	0
長崎	6	1	0	5
熊本	5	1	0	1
大分	7	1	0	7
宮崎	1	0	0	3
鹿児島	2	0	1	7
沖縄	4	2	0	6
合計	33例	5例	2例	34例

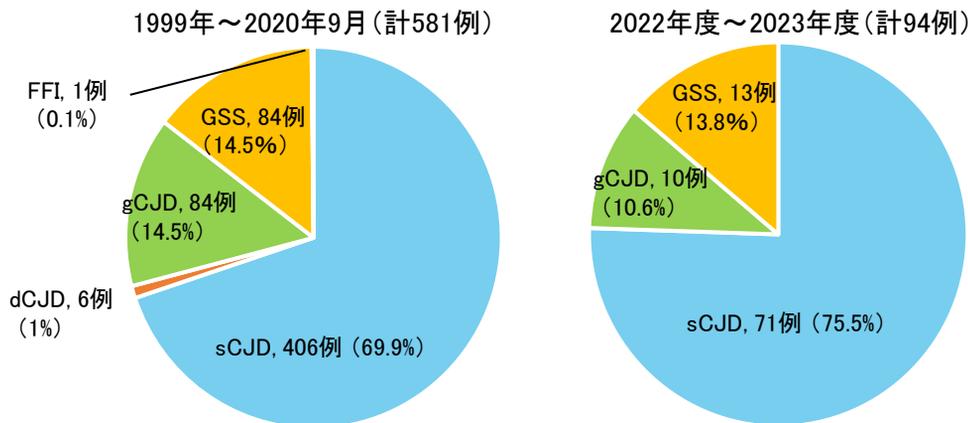
プリオン病の内訳



遺伝性プリオン病 変異の内訳



プリオン病比率の経時的比較



解説

- 2023年度において九州・山口・沖縄地区の74例プリオン病疑い症例について調査を行い、サーベイランス委員会で報告した。
- 40例のプリオン病が報告され、33例(82.5%)が孤発性CJD、5例(12.5%)が遺伝性CJD、2例(5%)がGSSで、遺伝性CJDは全例がV180I、GSSは全例P102L変異をみとめた。
- 九州・山口・沖縄地区では1999年から2020年9月までに581例がプリオン病と判断され、一方、2022-23年度で94例がプリオン病と判断されており、過去20年の症例数と比較して、相対的にプリオン病症例が増加している。